

# 相模湖町の森林から世界中に 《地球の森林を救え》を発信

NPO 法人 緑のダム北相模 (神奈川県)

一人一人が環境問題、  
森林問題について考える

神奈川県相模原市相模湖町の民有林で、下刈、間伐、枝打ちといった森林育成の取り組みを行なっている、森林ボランティア団体「NPO法人 緑のダム北相模」。毎月、第一土曜と第三日曜に定例活動を実施しています。今回、勢力的な活動を続けている「緑のダム北相模」の理事・石村黄仁さんに設立のきっかけについて伺いました。

「一九九八年の春、ハイキングで相模湖町の山道を歩いた時に森の異常さに気が付いたんです。私はずっと九州の山で育ったもので、このような暗くて静まりかえった森を見たのは初めてでした。本来の森の姿というのは生物がたくさんいて賑やかなんです。その森は全く整備がされてなくて、木は痩せているし、根が表面に出ている、〈森の墓場〉のような印象を受けました。その後、日本の森林は手を入れないので森が荒れる一方。このままだと大変なことになる」という新聞記事を見て考えるようになりました。地球には森林が四〇億ヘクタールあって、毎年、一二〇〇万ヘクタールずつ減っていると聞いています。そのことを知って、私も何かできないかと」

一九九八年八月、石村さんの呼びかけによって有志が集まり活動を開始し、二〇〇二



専門家の指導を受けてから作業に入ります

年にNPO法人化しました。

「私たちの団体は東京出身者がほとんど地元出身者がいなくて、最初の三年ぐらいは都会から来たボランティア団体ということで地元の人に信用してもらえませんでした。そういった状況の中で雨の日でも休まず活動を続けたんです。そして、徐々に地元の人たちにも受け入れられて、今では一緒に活動してきます。本当に継続は力です。一回でできる作業は少しなんです、継続していけば蓄積さ



れていきます。また、周りの信頼も生まれ、仲間もどんどん増えていきます。最初は三人程度で始めましたが、今では日によっては一〇〇人を超える日もあります」

二〇〇五年には森林のためにこれまで地道に活動してきたことが認められ、森林管理の国際認証であるFSC（森林管理認証及びCOC認証）をボランティア団体として日本で初めて取得しています。また、平成十九年度「ふれあいの森林づくり」優良市町村等と

して国土緑化推進機構会長賞を受賞し、昨年一月に開催された第三一回全国育樹祭で表彰されました。

「FSCの認証を取った時から、相模湖町の森林から世界中に『地球の森林を救え』を発信したいと思っています。主人公は私たち自身一人一人が環境問題、森林問題について考えて、みんなで力を合わせてやろうということを伝えていきます」

今後も益々活発な活動が続いていきます。

data

〒154-0023

東京都世田谷区若林3-35-9

(問)03-3411-1636

<http://midorinodam.jp>

上：参加者の半数は高校生や大学生です

中：みんなで協力し合ってトチノキを植樹

下：小学生を対象にした「緑のダム学校」も実施